

## 6. 心と行動のバリアフリー

八尾市では「一人ひとりが創りあげるバリアフリーのまち（みんなで作る安全・安心・快適なまちづくり）」を基本理念に障害の有無や、年齢、性別、国籍などにかかわらず、だれもが安全・安心・快適に暮らせる環境づくりのために、交通バリアフリーを推進しています。

交通バリアフリーのまちづくりを実現するには、施設（駅、道路等）のバリアフリー化を図るだけでなく、それを利用する側の「心と行動のバリアフリー」が必要です。

近鉄八尾駅周辺地区でも、タウンウォッチングやアンケート調査において、道路上の障害物や自転車の利用マナー等に関する問題が多く指摘されており、一人ひとりの「心と行動のバリアフリー」の実践が必要であることが課題として明確になりました。

全体構想では、基本理念に基づき、「心と行動のバリアフリー」について以下の3つの視点が提案されています。

### 「心と行動のバリアフリー」の取り組みにおける3つの視点

- ① 「バリア」とは何かを知ること
- ② 「バリアの解消方法」について考えること
- ③ 自分には何ができるのかを考えること

#### ① 「バリア」とは何かを知ること

##### —子どもから大人まで、交通バリアフリー教育の推進—

同じ状況下でも感じ取るバリアは、一人ひとり異なります。

障害者や高齢者をはじめ、できるだけ多くの人と交流をもつことで、多様なバリアの存在に気付くことができます。まず、個人によってバリアの大きさの違いや状況の違いがあるということを、一人ひとりが理解することです。障害者や高齢者でなくても、体調によっては、また一時的な怪我や病気の場合にも感じられるバリアもあります。だれにとっても「バリア」は無縁なものではないことがわかります。これが「心と行動のバリアフリー」への第1歩となります。

今、市内では、小学生による校区のバリアフリーマップづくり、高校生の福祉マップづくりなどが実施されており、子ども達が「バリア」を実体験し、障害者等との話し合いや交流を通じて障害者に対する認識を深める場を持ってきました。

八尾市の顔である近鉄八尾駅周辺地区で交通バリアフリーを推進することをきっかけに、次代を担う子どもたちに「バリア」とは何かを知り、考える場を提供していくことが必要です。例えば、小中学校と市の各関連部局、障害者、高齢者団体ならびに警察や交通事業者等の協力と連携のもと、子ども達に多様な学習の機会を提供する「交通バリアフリー教育」の推進などを検討していきます。

また、バリアフリーに関する情報発信をしていくことで、子どもだけでなく大人の啓発にも取り組まなければなりません。

## ② 「バリアの解消方法」について考えること

### —多くの人の意見を取り入れたバリアフリーのまちづくりの推進—

最近ではバリアフリーという言葉が浸透し、公共施設等ではバリアフリー対応の施設が整備されるようになりました。

しかし、障害者や高齢者等にとって本当に利用しやすい施設が整備されているでしょうか。例えば、点字による案内板が整備されていても、取り付け位置が低いために使いづらいものになっていたり、段差を解消するためのスロープの位置が適切でないために迂回をしなければならなかったり、せっかく整備されたバリアフリー施設であっても利用者にとって使い勝手が悪い場合があります。

だれもが同じように利用しやすく、快適なまちをつくっていくには、できるだけ多くの人がまちづくりに参加し、様々な意見を取り入れた整備が必要です。このためには、市民、事業者、行政と一緒に知恵を出し合い、改善策について考えていくことが必要です。

近鉄八尾駅周辺地区では、障害者や高齢者をはじめとする、市民、交通事業者、公安委員会、行政や学識経験者等の協力を得て交通バリアフリー基本構想を策定しました。利用者の視点から現場を確認し、同じ場で協議し、互いの立場を理解して、一緒に考えていくことの大切さを改めて確認しました。今回の取り組みをきっかけに、できるだけ多くの人の意見を取り入れて、利用者が本当に利用しやすい施設整備を目指します。

## ③ 自分には何ができるかを考えること

### —一人ひとりができることから始める「心と行動のバリアフリー」の推進—

交通バリアフリー法では、公共交通事業者、国および地方公共団体などの責務の他に、市民に対しても障害者や高齢者などの公共交通機関を利用した円滑な移動の確保に協力するよう規定しています。

ハード面におけるバリアフリー整備には膨大な事業費がかかりますが、わたしたちの目指す「心と行動のバリアフリー」は、お金だけでは決して達成できません。困っている人への関心や理解が進まなければなりません。たとえば、視覚障害のある人が、進む方向がわからなくなってどうしてよいかわからないとき、そのままではこの状況から脱することは困難です。しかし、「何に困っているのか」「どう援助したらよいか」をまわりの人が理解していれば、声をかけることで解決につながります。

「心と行動のバリアフリー」を充実していくためには、一人ひとりが「他人ごと」ではなく「わたしのこと」として考えることが求められています。

近鉄八尾駅周辺地区では、駅周辺の放置自転車や、商店街等における看板や陳列のはみ出しが通行の妨げとなるなど、車いす使用者や視覚障害者等にとっては大きなバリアが発生しています。

このような問題点を解決するには、単に施設のバリアフリー化をするだけではなく、事業者や自転車の利用者の協力と連携が必要不可欠であり、市民一人ひとりができることから始める行動力が必要になります。近鉄八尾駅周辺地区では、市民、事業者、行政が参画し、迷惑駐車・放置自転車に対するキャンペーンを実施しています。また、道路上の違法看板や商品のはみ出しなどを防止するために、関係機関や地元住民が一体となった「クリーンアップロード作戦」なども既に実施されています。

このような取り組みを継続的に実施し、市民、事業者、行政等の協力、連携によるバリアフリーのまちづくりをより一層発展させていきます。